

ケアマネだから できること

18

～家族という幻想～

木村晃子

～普通の家族・複雑な家族？～

結婚・離婚・再婚・別居・内縁関係・・・様々な家族の形があります。課題を抱えている家族について、「複雑な家族関係」という説明を使う援助者は少なくありません。けれども、「複雑な家族関係」とは一体何を指しているのでしょうか。少々疑問を感じます。

また、家族間のコミュニケーションが円滑ではない場合の理由づけとしても、「血のつながりがなから、本当のことを言い合える関係にない」と、わかったような説明がされています。

このような発言を悪気なくしている人は、「家族」のとらえ方が固定化しているのではないかと感じます。父がいて、母がいて、子どもがいる。時には祖父や祖母もいて、それぞれが血縁関係にある、というような場合に「家族」が成立し、これに当てはまらない場合には、「複雑な家族関係」という括りになってしまうのかと考えます。

お正月やお盆には、家族が集まって、ワイワイ・ガヤガヤ美味しい料理を囲みながら団欒をする。子どもに何かが起これば、親や祖父母もこぞって

あれこれ作戦会議を施し、親に何かあれば、今度は逆に子どもが親の元へかけつける。親は子どものため、子どもは親のために労を尽くすことが当たり前・・・これを家族の象徴だと思える人は、よほど幸せに家族を経験した人なのだろうと思います。そして一方で、家族などまるで無いようにして過ごしているその人にさえ、いや、その姿にさえ「家族」が存在している機微を感じ取れる人は、容易に家族を定義づけたりしないのだろうと思います。

～離れている家族、見えない家族～

お盆に久しぶりに自宅の母のところへ行きました。母に会うのは、お正月ぶりのような気がします。距離的には、それほど遠くのところにいるわけでもなく、車で1時間程度の距離にも関わらず、会うのはこんな頻度です。

母に会うにはとても覚悟とエネルギーが必要です。私の母は、大変多弁な人で、人の話を聞くことはなく、とにかく自分の言いたいことを話します。普段、一人で暮らしているから、誰か

が来たとき位しか話はしないよ、などと説明していますが、母のおしゃべりは昔からです。私が子どもの頃からそうでした。よほど、こちらの心に余裕がなければ、母の話を聞くことはできません。

このお盆に母のところに行ったのは、なんとなく気が向いたからです。午後から夕食前まで母とおしゃべりをして自宅に戻ってきました。

なぜ、なんとなく気が向いたのだろうか？とふと考えてみました。明確な答えはわかりません。本当に、なんとなく、だったのでしょうか。おしゃべりな母の一方的な話を聞くのは大変だと最初から予測していたので、母よりも上の世代のジェノグラムを描きながら、家族の歴史的な話を聞きました。思わぬ語り方に、いつも感じる疲れや、エネルギーを吸い取られるようなこともなく、楽しい時間でした。長い間、おしゃべりな母に嫌気がさしたこともあったけれど、この母のルーツを知ること、過去の人たちの凛々しくたくましい姿を垣間見ることができました。

雪の多い土地に住んでいながら、冬の間たった一人で過ごしていた母のことを思いながら、まだまだ一人で元気に過ごしてほしいなと感じました。

もし、今、介護が必要な状態になったとしても、私はそれほど役にも立てないし、母のために割く時間もさほどないと思っています。それはもしかすると、「親の面倒もみない子ども」というレッテルがつくのかもしれません。それでも、いいとすら感じます。もともと、それほど仲の良い親子ではない、会うことにものすごくエネルギーが必要な親子、そんな関係なのに、介護のために急に仲睦ましくなるとも思えないからです。とはいえ、実際にそのような状況になれば、今の気持ちも変化するかもしれません。

ケアマネとして関わる高齢者やその家族の中には、私のように親子関係に葛藤を生じているケースもあります。無理に親子の関係を修復させようなどという気持ちもありません。また、親の面倒は子どもがみるのが当たり前、ということも首を

かしげたくなくなります。

家族とは何だろうと考えた時に、血縁や同居しているかどうか、などでは定義できない、幅広さがあると思います。

家族の形はたくさんある。血のつながりなどなくても家族になっていくことはできる。一緒に住んでいなくても家族になっている。そんなたくさん家族の形を記憶しておきたいと強く思います。

家族がもっている不器用さを血縁関係がないから、だとか、内縁だからなどという意味のない説明をして、支援者として相手を理解することを怠る位なら、家族をどのように語り意味を持たせているかに、しっかりと耳を傾けるほうが相手の役に立てると思います。

スープの冷めない距離にいて、温かいスープが美味しいと確信している家族は、冷えたスープの旨みを知らないでしょう。冷製スープが、スーッと胃の中に入り込んでいくときの爽快さ。冷めたスープは冷まじきると、より味わい深くなると思います。

何となく行ってみようかな、そう思った気持ちこそが「家族」なのだと思います。絶対に会いたくない、そう思う気持ちもまた「家族」の表れかもしれません。

家族の距離感や家族の関係などに、「普通」はないように思います。

家族でなくてもできること。目の前の人の話に耳を傾けること。これは、家族でないからできること、なのかもしれません。